

## 県の提案に対して 宮城県精神科病院協会からの逆提案

(一社) 宮城県精神科病院協会  
会 長 岩館 敏晴

令和 5 年 8 月 31 日に開催された宮城県精神保健福祉審議会において村井嘉浩知事は名取市に最大 120 床規模の民間精神科病院を公募する考えを明らかにした。ここに至る県の考えを整理すると以下のような流れである。

富谷市に完全移転する → 名取市に外来機能を残す → 名取市に入院機能も残す  
→ 名取市に民間精神科病院を新設して精神医療センターの機能を継承させる

この流れを見て誰もが思うのは、それなら精神医療センターは名取市に残ったらよいではないかということである。

●村井知事の提案を受け、宮城県精神科病院協会は次のように逆提案する。

- ① 精神医療センターは名取市に残し、長年築いてきた地域精神医療保健福祉を継続すると共に、地域包括ケアを更に推進して夜間救急の減少を図る。<sup>註)</sup>
- ② 富谷市には東北労災病院と連携して身体合併症の対応に特化した民間精神科病院の新設を公募する。

村井知事の提案によって高等看護学校跡地（6,700 m<sup>2</sup>）に最大 120 床の病院建設は可能であることが明らかにされたのであるから、精神医療センターをダウンサイズすれば同地に早期移転は可能である。また、審議会で提案された県立がんセンター西側や精神医療センターの道路反対側にある仮設住宅跡地（別添、宮精協作成図）に建設すれば、大幅にダウンサイズせずに現状のままの移転も可能である。名取市美田園にある児童関連施設との連携も可能である。

一方、富谷の新病院は東北労災病院と協力して身体合併症に対応する精神科病院として機能すればよい。県立ではないから合築といわず、将来的には再編統合も可能である。

当会の提案は、精神疾患患者及び精神障がい者、地域の支援者や関連施設、精神医療センター職員、県内の精神科医療機関、そして村井知事を含めた誰もが困らないと共に、宮城県における精神科医療の底上げにも繋がるものであることを最後に強調したい。

<sup>註)</sup> 西尾雅明審議会委員によれば、地域包括ケアを推進することは夜間救急の減少に繋がることが海外のデータで実証されている。

# 現在の精神医療センターの 道路反対側にある仮設住宅跡地

現在と比較しても面積的には決して狭くない。  
あり方検討会(令和元年)当時は、仮設住宅が建っており、  
ここに移転新築する話は出しにくい状況であった。



矢印から時計回りに順次撮影



右上が道路を隔てた本館。  
奥に二軒の住宅が写っている。  
左の白い建物がりハセンター



近くでイベントがあり、  
駐車している車が多い。





南東角地から撮影。  
本館屋根が写っている。  
駐車中の車が遠くに見える。



比較的広い更地である。